

授業科目名 Course Name	日本教育史特論 Advanced Studies in the Educational History of Japan	教員名 Course Instructor(s)	河原 国男 Kunio Kawahara
		Eメールアドレス E-mail	kkawahara@miu.ac.jp
授業形態 Class Format	講義 Lectures	オフィスアワー Office Hours	講義後に対応 After Class
科目番号 Course Code	LAI613	担当形態 Mode of Instruction (Solo / Omnibus / Jointly)	単独 Solo
単位数 No. of Credits	2	配当年次 Allocated Year	2年前期 Spring, 2nd Year
		卒業要件 Required or Elective to Graduate	選択 Elective
到達目標 Goals	1. 日本の教育の変遷を説明できる 2. 日本の教育に及ぼした西洋文化の影響を理解できる 3. 福沢諭吉の日本教育への貢献を説明できる 4. 国際環境下での日本の教育の課題を考えられる		
授業の概要 Course Overview	日本の知的道徳的教育水準は高度に達成されている。それは短時日に模倣剽窃によって達成されたのではない。R. ドーア『江戸時代の教育』（Education in Tokugawa Japan）が明らかにしているように、「向上」の精神的基盤とともに、先人たちの持続的努力によって蓄積された。その場合、自生的であるとともに、諸外国との文化接触を通じて、学校の内外で種々の教育が展開していった。本授業では、講義を通じて、1）わが国の教育の達成とともに、18世紀以降の国際的環境の中で、とりわけ2）古典中国との関連、3）近代欧米文明との関連を通じて、わが国において、どのような教育理念、制度、実践が形成されたのかを取り上げ、わが国教育の史的基盤を明らかにし4）国際関係の中でのこれからのわが国の教育課題を考察にすることを目的とする。		
ディプロマ・ポリシーとの関係 Diploma Policy Objectives	DP1-2 国際コミュニケーションの観点から専門的な研究を行うために必要な学術的思考力を身に付け、国際社会の課題や諸問題を理解し、論理的かつ批判的に分析する能力や問題・課題の解決に向けて提言・実行する能力を有する。 Acquire the academic cogitative skills necessary to conduct specialized research from the perspective of international communication, understand and logically as well as critically analyze issues and topics of the international community, and has the ability to make proposals and take action to solve these issues.		

	DP2-1 異文化の多様性を客観的に見つめ、それぞれの特徴を的確に判断できる能力や異文化に関する知識を有する。 Acquire the ability to observe objectively at the diversity of foreign cultures and to accurately grasp the characteristics of each, and has knowledge about foreign cultures. DP2-2 現代のグローバル社会のさまざまな課題に対し学際的研究ができる能力を有する。 Acquire the ability to conduct interdisciplinary research on a range of issues that exist in the modern global society.
履修条件・ 注意事項 Prerequisites / Remarks	
授業計画 Course Schedule	1. 現代日本人の知的道徳的な達成と、それを可能にする学校教育の最前線の実践について、国立大学附属学校での先行事例とともに、教師の継続的な「研究授業」Lesson Studyの蓄積等の例を取り上げて、その基本事実を確認する。 2. 19世紀半ばでの「開国」以前と、以後におけるわが国の文化・教育状況にかかわる基本的事実について概観する。 3. 現代日本教育水準の高度な達成については、「学び」にかかわる長期にわたる史的基盤があることについて、R. ドーア『江戸時代の教育』（Education in Tokugawa Japan）等の先行する知見を原文及び邦訳によって紹介する。とくに庶民層に定着している「学び」による知的道徳的な“向上”の精神について取り上げる。 4. 「学び」の史的基盤を形成するものとして、古典中国との接触と教育の構想について、18世紀初頭の伊藤仁斎『童子問』の「学び」の理念を中心に明らかにする。 5. 「学び」の史的基盤を形成するものとして、古典中国との接触と教育の構想について、仁斎を批判的に継承している 18 世紀初頭の荻生徂徠『学則』等を中心に明らかにする。 6. 徂徠以降の 18 世紀後半以降における藩校を中心とした学校制度下での組織的な「学び」の普及状況について明らかにする。 7. 幕末明治以降における西欧文明との文化接触について、万延元年（1860）玉虫左大夫『航米日録』、慶応年間の『西洋事情』等を中心に、異文化接触における「学び」の様相と、障害児教育制度を含む体系的な学校制度の認識状況を明らかにする。 8. 欧米近代との接触と教育の構想について、基本事実の確認とともに福沢諭吉『文明論之概略』を中心に知的道徳的に自立する諸個人から構成される“国民国家”の確立を目指すものであったことを明らかにする。 9. 欧米近代との接触と教育の構想について、基本事実の確認とともに福沢諭吉『学問のすすめ』（1872-1876, 明治 5-9）を中心に「学び」の理論的な指針を明らかにする。 10. 近代日本の教育の達成について、ペスタロッチの理念とともに欧米の Reformatory

	School 等を導入して創設（1914,大正 3）した留岡幸助の「北海道家庭学校」を取り上げ明らかにする。 11. 近代日本の教育の課題について、福沢の教育構想を中心的観点として明らかにするとともに、同時代人の自己反省として夏目漱石の講演「現代日本の開化」（1911,明治 44）を中心に考察する。 12. 戦後日本の「民主主義」を理念とし「教育の機会均等」を原則とする教育制度改革について、「米国使節団報告書」との関連を中心に明らかにする。 13. 丸山真男の福沢論吉論、大塚久雄の M.ヴェーバー論を取り上げて、民主主義を理念とする社会構想と人間類型に関わる教育認識について明らかにする。 14. 21 世紀の「協調的」であるとともに「競争的」な国際環境の中でのわが国の教育の課題について、直近の中教審答申等を資料に検討する。 15. 国際環境の中での日本教育の成果と課題について、これまでの歴史認識から、民主主義を理念とする主権的“国民国家”の確立を目指す「学び」の観点から総括する。
学生に対する評価 Assessment Criteria	4つの課題についてレポートを提出させ、1 課題25点として採点し、100点満点とする。 なお、レポートはコメントを付して返却する。
時間外の学習について Preparation and Revision outside Class	福沢諭吉や夏目漱石などに関する読書を希望する。
テキスト Textbooks	
参 考 書 ・ 参考資料等 References	